丹波志　多紀郡　三ノ二

姓氏

和書門
類
二九二八一號
一二三函
四架
三七冊

内閣文庫
和書
類
二九二八一
號
三七
冊
七五番函
大
架
(七冊)

内閣文庫
番號　和　29281
冊數　37（7）
函號　175　103

(三十七)ノ七

国立公文書館
National Archives of Japan

内一〇九八九號

宗我部郷大渕村
弥惣五郎家系

畑氏 姓不知

新田左中将義貞従士畑六郎左衛門時能子

能速 畑六郎

按太平記義貞ノ従士六郎左衛門時能ハ武
蔵国住人ト出同大全ニ畑六郎左衛門時能
姓不詳云云義貞ハ正慶二年鎌倉ニ至リ北
条高時ヲ攻亡シ夫ヨリ上洛シ京師ニ居リ
延元元年摂津国ニ尊氏ト戦テ敗績シ越前
ニ去リ同二年同国足羽ニテ流矢ニ中テ自

殺ス時能猶殘兵ヲ集メ戰フ曆應元年十月廿二日越前國鷹巢城下ニ流矢ニ中三日夜苦而死若時能京ニテ妾服ノ子ト云ハ可ナリ家傳ニ幼少ノ子故郷ニ成長シ後畑ニ来ルト雖丹波元来尊氏親服スル国ナレハ雖忍フト雖来リ住スヘキニアラス若時ヲ待タハ新田ノ支族ニ隨身スヘキ義也此類ノ説他国ニモアリ近江國蒲生郡石塔村ニ畑六郎左衛門カ飼シ丹波国ヨリ出タルチシ獅子ト云犬ヲ埋メシ所モカノ墓ノホトリ

也ト云此処ハ畑ノ名無ケレトモ右ノ如キ説アルヲ見レハ此地畑ノ名ニヨツテ附會スルナランシ若カノ説ノ如クナラハ其頃マテ古名無キコトアラシ古名ヲ云傳ヘサルカ彼是正シカラス畑村ト云所ハ天田郡ニモアリ此系圖時能ヲ祖トスルハ信シ難ケレトモ大永ノ頃既ニ畑氏トシ武功アリシ感状ヲ得今ニ末葉ノ家ニ傳ヘ天正ノ頃ニモ畑悪太夫畑牛之允ラハ武勇ノ名高カレハ従来此池ニ久シク居住セシト見ヘタル支ユヘ土地ノ名ヲ氏ニ稱ス

ルカ或ハ此先祖モ兼久ノ頃此地ヲ賜
ハリ本氏ヲ舎テ地名ヲ用イタルカ

能道　久作六郎右衛門

守道　林吉六右衛門

道永　林吉六兵衛

守永　弥太郎　弥左衛門

守童　弥太郎　内記

能童　牛太郎　内記

經童　牛之允　刑部

守綱　牛太郎　内膳

波多野輝秀感状アリ其文ニ曰

今度被對輝秀抽忠節候ハ
誠神妙之至候仍為其賞秋部荘
吉地之事一職申付候全可領知
不可有相違之状如件

大永元年辛巳九月日

輝秀（花押）

畑半七郎とのへ

忠綱　宗太郎　宗右衛

守廣　宗太郎　彈正忠

能綱　宗太郎　右近允

守能　梅法師　半之允

守勝　吉藏　内記

守忠　吉藏　悪太夫

守國　兼太郎　半兵衛

某　与兵衛

寛永十一戌年十二月十八日死

能國　宗八　半右衛門

能忠　梅九　半之丞

某
惣右衛門
丑七月廿九日死

某
仁兵衛

某
惣右衛門弥平次
元禄六酉年七月十三日死

女
弥左衛門妻

某
佐右衛門

某
弥兵衛

某
弥兵衛

某
亀兵衛

某
八兵衛

某
惣左衛門
宝永元申年七月十二日死

某
惣左衛門
享保六丑年三月廿八日死

某 清兵衛

某 徳兵衛

女 波々伯部氏三郎兵衛妻

某 惣右衛門

某 喜右衛門

某 徳左衛門

某 徳左衛門

某 又右衛門

某 佐右衛門

某 仁兵衛

某 太右衛門

某 五兵衛

某 六右衛門

某 角兵衛

某 久兵衛

某 角右衛門

某 理右衛門

某 清右衛門

某 角右衛門

某 忠右衛門

某 惣助
延享二丑年十一月三日死

某 三吉

某 長兵衛

某 惣兵衛

某 當弥惣五郎

某 當惣次郎

某 貞八

是ハ畑故ノ大庄屋弥左衛門家系也

私云弥左衛門実子ナク養子ハ死去後離
縁ス因テ家断絶ス弥左衛門妻ト其弟傳
右衛門ト謀ツテ取行フ彼弟篠山町人タ
リシカ出奔シ姉モ京都ニ去彼系圖感状
モ持行タルカ知ラサル由藤兵衛語レリ
向ニ弥左衛門存命ノ時傳来ノ家系ヲ見
ルニ　植武天皇ヨリ出始メ次男混雑シ
文字往々消クル偽作ナリ感状ハ此時既
ニ失ヒシカ見セス負敗記ニハ牛ヶ允守
能實父能細也叔父弾正忠守廣カ養子ト
アリ大渕ノ畑氏カ家系ニ違ヘリ
兵家茶話云丹波国八百里城者在多紀郡曽

我部庄畑村天文弘治頃畑七郎左衛門
居此城波多野孫四郎元秀文書有
舟井郡九品寺分同曽我谷之内負分
等事爲分力進之條萬一相搆争於有
之者督地可進候弥御馳走專一候猶
歳左近可申候恐々謹言

弘治貳
十月廿二日　　孫四郎
　　　　　　　　元秀判
畑七郎左衛門尉殿

此文書子孫弥左衛門家藏也云々

向井村高橋淳益カ録シ置ケル畑氏ノ家系左ノ如シ

守国

- 弥左衛門　火打岩村嘉忠　保谷ニ蟄居後瀬利ニ移住
  - 半左衛門　後弥九衛門　寛文二正月十六日死
- 彦兵衛　右同所ニ住　妻ハ大山長沢氏女
  - 与兵衛　慶安二正月二日死
- 六右衛門　雲州松江城主松平出羽守ニ仕

弥左衛門　天和元年正月七日死号元心

甚兵衛雲州ヘ下向シ六右衛門カ後ナル六右衛門ニ謁ス皈ル時騎具ヲ添テ送レリ其馬具ヲ二男刑部ニ譲レル処刑部ハ常ニ法華経ノ読誦シ名聞ニ抱ハラス故売物トナシタルカ今ハ鞦ノミ残リ雲州ヨリノ来簡モ数通アリシカ只今ハ弔状一通アリト云

- 弥左衛門　初甚兵衛　元禄十四三月十四日死
  - 弥左衛門　初市郎右衛門実九兵衛子　宝暦三年四月十八日死八十三
  - 刑部　初六左衛門　宝暦十年八月二日死七十余

七左衛門

女二人

半兵衛

三郎右衛門

半左衛門

与次右衛門

平兵衛

才太夫 貞享二九月八日死

与右衛門 元禄三八月二日死

茂助 貞享元十二月廿二日死

女六人内一人 弥左衛門妻

才兵衛 延享二年五月二日死 妻大芋邑兵衛 未福井村佐兵衛女

九兵衛

女二人 火打岩村八兵衛 大渕村惣右衛門妻

六兵衛 火打岩村ニ住

吉郎右衛門 法名道雲

盧州 畑大寧寺住持

正空 沢田清教院

弥左衛門 宝暦八年二月十五日死 五十余歳

畑藤兵衛 山廻

貞右衛門

女

幸助

金右衛門

才兵衛　養子　叔父福井村佐兵衛

市郎右衛門　弥左衛門養子トナル

九兵衛

与兵衛

女二人　向井村五郎兵衛　川北村小左衛門　妻

傳右衛門　元文二年正月十日死　十十歳

佐右衛門

僧　滔清教院

六郎兵衛

女二人　京町家ニ嫁　弥左衛門妻

傳右衛門　篠山町ニ住　出奔

一

右系ハ火打岩村住ス道雲カ説并ニ向井村高橋淳益カ聞傳ノ趣ノ淳益カ録セルヲ写

雲州松江母衣町住畑六右衛門知行五百石先祖六右衛門ヨリ六代ニ及其子ヲ八十衛ト云

先祖弥左衛門庚子トアリ弥左衛門家系符合

家傳云大渕村ノ畑氏ハ紋丸ノ内ニ鷹一引火打岩ノ畑氏ハ元祖彦兵衛カ妻大山ノ長沢氏女タルニヨツテ同人并ニ兄弥左衛門共ニ長澤ノ紋丸ノ内ニ二ツ引ヲ用ユ然レトモ丸ニ

二ツ引ハ日ノ字ト同意ユヘ二ノ字ヲ角字
ニ作テ丸ノ内ニ加入シ用ユ松江ノ同氏伴
左衛門宝暦　年主用有テ京師ニ来ル時ニ
六代目ノ弥左衛門カノ旅舎ニ訪ヒ謁シ相
共ニ家系ノ次第ヲ話ク紋ノ事ニ及フ因テ
弥左衛門右ノ由来ヲ話ル是後伴左衛門モ
丸ニ二ツ引ヲ用此時弥左衛門先祖斗之允
カ矢根一對并家系ヲ副送ル伴左衛門着用
礼服ヲ送ル其紋丸内ニ割桙ヲ付ク宮村ノ
畑氏ハ後鳥羽院隠岐国ヘ遷幸ノ頃后
兼明門院皇子経絶親王畑ヘ蟄シ玉イ畑
氏ノ者ヘ半菊ノ下一文字ノ紋ヲ玉フ

又云畑氏ト称スル者三流アリ一牛之允畑
一加兵衛畑一出合畑是ナリ牛之允畑ト
云ハ彼カ末流ノ者也加兵衛畑ト云ハ慶
長元和ノ頃瀬利ノ内中村ト字スル処ニ
加兵衛ト云者居レリ一女アリ容顔美麗
ナリ領主松平忠国君一日放鷹ニ出カノ
女ヲ見召シテ仕シム因テ父ヲ郷代官ト
シ玉フ彼レ畑ト号ス此子孫ノ者也出合
畑ト云ハ足軽躰ニ奉公ニ出郷名ヲ称ス
ル者ナリ

又云畑六郎左衛門時能カ子六郎能連ト云
者父没後幼年ニシテ在所ニ成長シ當

地ニ来リ此山ニ城キ山下ノ村ヲ畑ト号
奥敗記ノ説右ニ同シ
私云瀬利次赤岩ノ畑氏等長沢ノ紋九ノ内
ニ二ツ引ヲ用ユト云ハイカチ彦兵衛カ子
ノ代ニ至リカヘ紋トシテ母方ノ紋ヲ用ヒ
ニハ可ナリ妻ノ紋ヲ用ユヘキ理ナシ畑氏
両流紋ノ同シカラサルハ必嫡庶ノ所以ナ
ルヘシ大渕ノ従ハ元来嫡流輝秀ノ感状ニ
顕ハレ瀬利次赤岩ノ族ハ庶流元秀ノ感
状ニ明ナリ故ニ彦兵衛カ兄元祖弥左衛
門ヨリトモニ九内ニ引ヲ用ユト見ヘタ
リ然ラスシテ家傳ノ説ノ如クナラハ兄

トシテ弟ノ妻ノ紋ヲ用ヒシハ笑ヘキノ
甚シキナリ宮村ノ畑等菊一ヲ用ユルハ
鶴ヲ菊ニカヘタルナラム兼明門院丹波
ニ来リ玉フコト旧史ニ見ヘス是附會ノ
説ナラン若明門院ノ頂紋ヲ賜ハル程ノ
ノ士アラハ尊氏丹波ヘ遁レ玉イシ時国中
士ト共ニ走集ルヘキ処畑ノ名太平記
ニ見ヘス且義貞ノ臣畑氏カ末ナラハ甚
以前此地ニ居ルヘカラス然レハ宮村ノ
畑氏ハ時能カ末ニアラスト見ヘタリ諸
説皆妄説ナリ愚彼紋ニヨツテ考ルニ彼
々伯部氏ノ紋鶴ニ根引ノ松ナリカノ支

流ナルエヘ、松ヲ一文字ニカヘテ紋トシ畑ニ移リ住シ村号ヲ称号ニ用イタルニハアラサルカ

又弥左衛門同氏伴左衛門ヘ送レルニ先祖牛之允カ鏃ト云鏃ハ牛之允カヤシリニモセヨ先祖ト云ヒタルハアヤマリナリ牛之允ヲ先祖ト思ハ元祖弥左衛門兄弟ハ三人守国カ子トスル故ナリカノ家系ハ前ニ具サナリ

兵家茶話ニ八百里城ハ天文弘治頃畑七郎左衛門居ルト云又畑悪太夫同牛之允居ルト云此牛之允ト書タルハ謄写スル者ノアヤマリナルヘシ明知初メ赤井ヲ攻メ利ナクシテ敗ル道草山ニ遁リ討ツ徒ニ畑悪太夫同牛之允トアリト云伝ヘモ牛之允ナレハ牛之允ニ相違ナシ然レハ天文弘治ノ頃七郎左衛門ハ百里城ニ居ルト云ハ非ニシテ奥畑ノ内ニ住居シタルニヨリ其子孫タル者火打岩ニ蟄スト云ナラン又牛之允モ太渕ニ住居シタルト見ヘテ其末ノ弥惣五郎ト云者太渕ニ宅アリ其宅メタリニ隍塁アリ隍今半ハ養水ノ爲ニ残シ其餘ハ填タリコレ治世ニ至リ士民ノ身トシテ成スコトナラスコレヲ

以テ観レハ牛之允カ末ト二郎左衛門
カ末ト二流ナリニ畑時能
カ子六郎能連其一男子廣弾正忠天正
七年七月畑城ニ討死八十一二男能綱
手之允守綱実ハ能綱子父ト相性アシ
キ故伯父ノ子トス牛之允ハ天正七年
七月於永沢寺テ剃髪シ高野山ニ入リ
病牛入道ト号シ名ヲカクリシ居所ヲ定
メス国テ死期モ知レス其子牛兵衛守
国同年五月氷上八幡山ニテ戦死ス三
十五歳二男牛右衛門能国定ト共ニ畑
城ヲ退ク三男牛之允父兄ト同シト云

籾井記ニハ守廣嫡男牛兵衛黒井ノ八
幡山下ニ戦死ス幼子アリ二男牛右衛
門能国廿八歳末男牛之允十六歳出家
シテ永沢寺ニ入此二人ハ畑左近允能
綱カ子父没シテ後伯父ヲ父トスト云
織田軍記ニ八幡山ノ戦ハ天正七年五
月五日トアリ年暦タカイアリ旦黒井
八幡山ト記スハアヤマリ柏原ノ八幡
山ナリ父ト相性アシキニヨリ伯父ノ
子トスト云ハ今二男丑年ナレハ嫡子
ニ害アリ父四十一歳ニ生レタル子ハ
四十二ノ二ツ子ト云テ芸ニ他人ノ子

以テ観レハ牛之允カ末ト七郎左衛門
カ末、眞敗記ノ説ニ畑時能
カ子、記退其一男子廣弾正忠天正
七年七月畑城ニ討死八十一二男能綱
手之允守綱実ハ能綱子父ト相性アシ
キ故伯父ノ子トス牛之允ハ天正七年
七月於永沢寺テ剃髪シ高野山ニ入リ
病牛入道ト号シ名ヲカリノシ居所ヲ定
メス国テ死期モ知レス其子牛兵衛守
国同年五月氷上八幡山ニテ戦死ス三
十五歳二男牛右衛門能国定ト共ニ畑
城ヲ退ク三男牛之丞父兄ト同シト云

赤井記ニハ守廣嫡男牛兵衛黒井ノ八
幡山下ニ戦死ス幼子アリ二男牛右衛
門能国廿八歳末男牛之丞十六歳出家
シテ永沢寺ニ入此二人ハ畑左近允能
綱カ子父没シテ後伯父ヲ父トスト云
織田軍記ニハ八幡山ノ戦ハ天正七年五
月五日トアリ年暦タカイアリ旦黒井
八幡山ト記スハアヤマリ柏原ノ八幡
山ナリ父ト相性アシキニヨリ伯父ノ
子トスト云ハ今二男丑年ナレハ嫡子
ニ害アリ父四十一歳ニ生レタル子ハ
四十二ノ二ツ子ト云テ共ニ他人ノ子

トナス俗ノ風ニテ彼須ハ父タトヘハ火性ナルニ子モ赤火性ナレハ居クルヿ云ナラハシアリタル故カ然レトモ三子名同性ニハアルヘカラス後ノ附説ナルヘシ父早世シ三子幼少タルニヨツテ伯父継テ家ヲ相続シタルナラシ元畑ハ里畑奥畑二村ニテ惣名ハ宗義部郷ト云後郷ヲ庄ト呼フ輝秀ノ感状ニ宗義部庄両地トアリハ里畑奥畑二村ノ事ナリ此二村ハ大渕ノ畑氏カ先祖牛太郎ヘ大永元年宛行ハレタル故其後畑七郎左衛門ヘ宛行ハルヘキ地ナキニヨリ船井郡ノ内ヲ宛行ハレタリト見ヘタリ然レトモ住所ハ

畑ナリト見ヘタリ船井郡ニ畑氏ノ又居住ノ古跡聞ヘス天正中ニ明知此郡ニ入諸城ヲ攻ムルニ及ンテ微勢山城ニ利アリ又小ナルトモ分数ニ宜シト思フトモ僅ニ一庄ノ領主其人数幾許モアラス然ルヲ二城ニ分タハ地利ハ得ルトモ扣クニ足ルヘカラス国ヨリ後援ナケレハ始ラク高陽ニ居テ敵軍ノ攻伐ヲ煩労セシメ而シテ後ニ潔ク戦死セシト評定シ八百里山ニ城キ一族ココニ拠リタルナラン牛之允悪太夫ラハ向キニ光秀ヲ草山ニ遮リ敗走セシメタレハ降人トナル

ヘキ理ナシ然レハ戦死スルカ又ハ他邦ニ
去ルヘキナレハ他国ニ遁レリトノ説疑イ
ナシ然レトモ牛之允并ニ二男牛右衛門ト
モニ畑城ヨリ遁レ去ルトイヘハ牛右衛門
カ終リモカクト云ヘキ処牛之允ノミ住
所ヲ定メス終リシレスト云又三男牛之
丞ハ永沢寺ニ入出家スト云然ラハ此終
ハ知ルヘキニ出家セシコトマテニテ其
後ノ行末ヲシラサルモイカヽナリ旦牛
之允并ニ嫡男牛右衛カ妻ハサキニ死シ
タルカ又ハ離別セシカ何レモ此時二人
ノ妻ハナシト見ユ然レハ嫡孫一人ニ先

祖ノ得ル感状ヲ譲リ他人又ハ下人ニ託
シ置タルヤコレヲ光秀一捜シ出サレハ
武名ヲ汚スナリタトヘ一旦他邦ニ忍フ
トモ天正七年七月ヨリ同十年六月マテ
三年ナリ信長弑セラレ玉イ光秀殺サ
レテ後ハ往年光秀ニ従イシ此郡ノ徒
遁レテ故郷ニ皈住スル者アリトモ隠
ルヘキ時ニアラス然ルヲ皈住ノ説ナ
リシテ牛之允カ事ヲ具サニ興敗記ニ
書タル共ニフシンナリ遇コレヲ考ル
ニカノ説ノ如クナルヘカラス白キニ
郡中ノ諸城主光秀カ為ニ或ハ戦死シ

或ハ降リ秀治・神尾ノ會ニ因ハレタルニ至テハ八百里城ヲ永ク守リ運ヲ開クヘキ時ニアラス婦人小兒ハ他邦ニ使ヲ求メ遣シ而後ニ守城シ去テハ妻子ト共ニ身ヲ隱シ信長公弑セラレ光秀亡ヒタルヲ聞テ旧里ニ皈リ子孫土民トナリタルナラン是牛之允カ家族ニ限ラス七郎左衛門カ一族モ皆然ルヘシ故ニ両家先祖ノ感状モツレソレノ子孫ヘ傳ヘシト察セラル但牛之允ハ卒ニ遁世シテ終リシレサルカ何レニモカノ一族詰リタル事ヲ聞或ハ附會シ書シテ丹波負敗記ト名付タルカ畑氏ト云者皆牛之允ヲ祖ト云ハ同氏ノ中ニモ武勇秀出セシ故カ然レトモ瀬利火寺岩ノ畑氏ハ先祖兄弟三人火寺岩ニ蟄スト云フ大渕ノ畑氏ハ先祖以来隍塁ヲ搆ヘタル処ニ住ス是嫡流ニシテ左牛之允カ末流ニ紛レナキノ證明ナリ瀬利大寺岩ノ畑氏等牛之允カ末ニアラス七郎左衛門カ末ナリトシテ傳来ノ感状アレハ聊趾ナリシ然ルヲ牛之允カ末ト云テ七郎左衛門カ得タル感状ヲ

家蔵トスレハ先祖トナレリ感状ト符合セ
ス却テ疑ノ端トナリ強テ論スヘ
キニアラス惣シテ諸国共ニ古ヨリ
住シタル士或ハ其子弟其国ノ乱ニ
ヲ避ケテ他邦ニ仕ヘシ類尤弥ラシ
カラス其君トシテハ其人ヲ撰ニテ
使フ其選ヤ或ハ善行ヲトリ或ハ蟄
能ヲトリ或ハ才智ヲトリ或ハ武勇
ノ子孫ヲトリ或ハ高貴ノ子孫ヲト
ル武勇高貴ノ子孫ヲトルト雖其虚
実ヲ糺スヲ要トシ系圖ノ有無ヲ論
セス故ニ系圖ノ無キ人多シ其子孫

ニ至テハ先祖初テ事ヘシ是後世ノ鑑
ナク何ソ必シモ往世他邦ニ在リタル
元祖ノ武名ヲ求メシヤ又貞享二丑年
畑村甚兵衛書シタルヲ享保七壬寅年
九月畑宗助写トアル雑記ノ中ニ八百
里城主畑悪太夫奥畑茶臼山城主畑牛
之允トアリ右大渕ノ畑氏家系ニ牛之
允ト悪太夫トハ従弟ト見ヘタリ此説
ニテハ七郎左衛門カ末奥畑ノ古城ニ
ヨラサルト見ユ然ルニ右甚兵衛ト云
ハ四代目ノ弥左衛門カ初ノ名ナリ彼
モ牛之允カ末ト思フカユヘニ七郎左

衛門カ事ハ云バスト見ヘタリ此説モ
信シカタシ但後悪太夫モ居タルカ来
詳ナラス右弥左衛門家断絶シ古書同
家庶流ノ者モ写シ留メス先祖ノ得タル
感状行方知レス惜ムヘキコトナリ故ニ
今校ル趣ヲアラハス右感状ノ文ハ兵家
茶話ニ載スレトモ高国ヨリ弥太郎ト云
者ヘノ感状ハ弥左衛門カ家蔵ト出サ
ス是ハ他家ニ所持スルユヘ知レサリ
シヤ但右弥太郎ハ弥左衛門カ先祖ナ
ナルヲ知ラサリシヤ大渕ノ畑氏カ家
系ニ弥太郎ト云アリ此者ハ弥左衛門

等カ同家共ニ先祖ナリ其父ヲ弥左衛
門其祖父ヲ六右衛門ト有火打岩ニ蟄
セシ兄弟三人ノ中長ヲ弥左衛門季ヲ
六右衛門ト号シタル各先祖ノ名ナレ
ハナリ右元祖弥太郎カ嫡子ヲ牛太郎
二子牛之丞ト云牛太郎カ子モ亦牛
太郎ト云大永元年ニ輝秀ヨリ感状
ヲ得他家ニ傳来スル高国ヨリ弥太
郎宛ノ感状年号ハナケレトモ文章
ノ趣大永七年高国桂川合戦ノ時ト
見ユ然レハ此弥太郎モ後牛太郎同
時ナレハ牛之丞経重カ子ニテ牛太

郎守綱ト従弟ナリコレヲ以テ按ルニ
大永七年ヲ彼ノ弥太郎二十歳トシ七
左衛門カ元秀ヨリ授リタル感状ノ年
号弘治二年マテ三十六年ナリ七郎左衛
門ヲ弥太郎三十歳ノ子トシ天文六年ノ
生トスレハ弘治二年ハ七郎左衛門モ亦
二十歳ナリ而シテ七郎左衛門三十ノ年
ハ永禄九年ナリ此年中奥ノ祖弥左衛門
生レ其翌年ヨリ中三年ニシテ其弟
九兵衛ヲ元亀元年ノ生レトスレハ此
年七郎左衛門三十四歳ナリ其次ノ弟
六右衛門ヲ天正二年ノ生レトシテ此

年七郎左衛門三十八歳ナリ天正七年ニ
ハ七郎左衛門四十三歳弥左衛門十四歳
二男九兵衛十歳三男六右衛門六歳ナリ
カクノコトクナレハ右三人ハ七郎左
衛門カ子トシテ年暦相當セリ天正七
年マテ七郎左衛門存命ナラハ牛之允
悪太夫等ト相並テ武勇ヲ顕ハサンニ
ヨク其名云傳ヘ有ヘケレトモ此頃ハ
既ニ死セシト見ヘタリ因テ牛之允悪
太夫等元同姓ノ親有ヲ以テカノ三幼
子ヲ憐ミ養育セシカ故ニ三子モ父ノ
恩ヲナシ他人モ牛之允カ子ト云傳ヘ

シナランニ右家ノ元祖兄弟ヨリ中興ハノ
始祖迄兄ノ末ハ六代弟ノ末ハ二代ニ
及ヒ世代等シカラサレトモ早世長壽
ノタカイ古今珎ラシカラス尤大永元
年ヨリ弟ノ家父ノ子ヲ生シタル年数
通例ナリ兄ノ家父ノ子ヲ生シタル年
数考ルニ大永元年ヨリ天正七年マテ
五十九年ナルニ牛之允マテ五代ナリ
旦牛之允カ嫡牛兵衛天正七年二十五
歳アレハ天文十四年ノ生レナリ終ハ
牛兵衛父子カ年ヲ目當トシ初ハ感状
ヲ得タル牛太郎カ其時ノ年ヲ目當ニ

試ルニ先大永元年感状ヲ得タル牛太
郎ヲ甚壮健ノ人ト見ユ大永元年ヲ七
十歳トシ甚子宗右衛門五十歳是父廿
一歳長禄三年ノ生レナリ甚子弾正廿
八是父ト廿一年文明十一年ノ生レナ
リ其子左近十二是レ父廿一歳明應八
年ノ生レナリ甚子牛之允一歳是レ父
廿一永正十六年ノ生レナリ又甚子牛
兵衛天文十四年ノ生レ父廿六天正七
年ニハ牛之允六十一牛兵衛三十五歳
ニ當レリカクノ如ク見レハ世々父ノ
子ヲ生シタル相當セリ但早世ノ者ア

リテ養子ヲ以テ相續シ世代多キカ
然シナカラ大渕ノ家系ヲ見ルニ先
祖代々自筆ニテ書ツキタルニアラ
ス是ヲ以テ観レハ疑フラクハ感状
ノ年号ヲ目當トシ世代ヲナシタル
ニハ非サルカ

一日或人畑牛之允カ遺書ト云一軸ヲ
懐ニシ来リ見セシム是又畑氏ノ族
ニアラス故ニ其名ヲ顕ハサスカノ
文ニ曰

武士ハ迷故三界城そし（渋ヘテ見ヘス）
悟ルハ十方空海ニ來
先祖六郎左衛門尉　利田
従軍為屋流矢肩須羅
普畫統不桂麗之子　六郎左衛門
紛毋し書付ち孫〻傳十一代

大芋庄藤坂村
五兵衛家系

義治　太〻郎九郎　尾張守
明徳ノ頃藤坂村へ移り来住新田ノ支族
ト云傳家紋九ノ内ニ鳳凰数竹二本

義秀　藤藏

義利　藏人

義貞　右京進

義吉
小六
新田ノ支族タルニ因テ足利家ヘ恐テ
中島氏ニ改ム

義里
中馬越前守藤坂村古城アリ城館
ノ跡ニ出ス故ニ爰ニ畧ス
天正十年六月十三日明智日向守光
秀ニ随ヒ山城国山崎ニ戦死
法名圓宗常通居士

義雄
豊後
元禄元辰年十月十日早世

法名成玉東林居士

義盈
豊後
實舩井郡井脇村片岡氏某子元和六
申年七月七日死
法名権大僧都法藏印

義行
弥十兵衛家紋鳳凰ヲ除殺竹計ヲ
用實福井村大芋某カ子後ニ藤坂村
ノ家トリヲ嫡子ニ譲リ二男三男
ヲ誘ヒ福井村ニ住ス
慶安三寅年七月九日死

法名直岩傳正上座
松平山城守忠国君領知ノ時卿
代官證書ヲ失ス

義次

半之丞 初加賀太守ニ仕フ後故
卿ニ皈
元禄八亥年十二月廿八日死
法名昌室常盤庵主
松平忠国君ノ時卿代官タリ證書
アリ其文曰

新ケ並當年卯ノ物成之事
右者山之掛算用ニ候条
候ハヽ取極候也仍如件
寛永四年
卯ノ極月十九日
印
代官
東之丞
代官衆

一 高三百石 仁斗升 荻坂
右之分令扶助者也
寛永八年未ノ二月吉日
忠昌

某
父ニ従テ福井村ニ住ス今ノ九左衛門カ
高祖父ナリ

某
右ニ同

義信
五兵衛 雲雉
松平紀伊守信康君同信峯君両代
庄屋
寳暦三酉年二月十二日死
法名一参了照居士

義直
五兵衛
松平信峯君ノ時庄屋享保十八年十
一月五日死
法名仁方通義居士

義存
五兵衛
六蔵

某　忠左衛門
伯父弥次兵衛養子トナル

某　五郎兵衛
實天田郡細見戈谷村川勝氏太次
郎子也義直カ女ヲ以テ妻ハス
私云藤坂村神祠ノ内上梁ノ文アリ
其文ニ明徳三年庚午三月廿六日
棟上一行間家時○○○○○左○○○座一行
大檀那太郎九郎尾張守義治一行
本地祐○○大明神二行ニ如此アリ但
右ハ貞享二年ニ写セシ趣ナリ

元禄六年三月八日ニ写セシ時ハ三年
以下目以上虫喰文字不知今紀ス
ニ二行ノ内大檀那ノ字ナシ義治
ト云人新田ノ支族ニハ義貞ノ弟
脇屋左衛門義助ノ子ニ同右衛門
佐義治ハカリニテ其他ニ義治ノ
名ヲキカス明徳二年十二月廿九
日山名氏清内野ニ戦死ノ日其子
宮田左馬介同七郎ニ父ノ死以前丹
波ニ遁レ畑ノ城ニ楯籠ル是明徳
三年正月ト見ユ此時大芋村雲ノ
郷民等彼城ヲ攻ム宮田居弟ハ
敗走セシヨシ後大平記ニ出ス

同年ノ二月右神社造立ノ大檀那尾張守義治ト云人アラハ畑ノ城攻ヲ時大芋村雲ノ郷民トハ書ヘカラス又尾張守義治ト云人在テ神祠ニ書スルナラハ其名アラハレン然レハ足利家ニ恐レ忌ヒタルトノ云傳ヘニ反セリモトヨリ建武以来丹波ノ士ハ尊氏ニ属シ明徳二年迄ハ山名氏ノ領国ナレハ新田ノ支族タル人ハ蟄スヘキ国ニアラスカレコレ以テ新田ノ支族ト云ハ義治ノ字ニ據テ後世附會ト見ヘタリ

若義治ト云人明徳三年初テ遣立ノ祠ナラハ明徳三年二月廿六日尾張守義治造立ト書ヘシ且閣家時トアツテ其下消テシレサレトモ左ノ字アツテ甚次消テ又座ノ字アルヲ見レハ運ヲ開キ家ヲ興シタラハ此神祭祀ノ日村民會合ノ席左リ方ノ上座タラン其時ニ及ヒタラハ尾張守義治ト号セント太郎九郎ト云者宿願ヲコムル意ニテ建立セシ祠ナルカ西部ノ神道

ニハカナラス本地ト云テ佛名ヲ配當スル本地祐ト書タルモ祐以下ハ消テナケレトモ右ノレイニ效ラテ先祖祐何ト云タルノ本地トスル意ニテ書タルカ如此論スレハ尾張守義治ト云人アリタルニハアルヘカラス故ヲ以テ新田義治ニテハアルヘカラス傳説ハ無キヤト問ハシム六藏カ云ノ先祖脇ヤト号シ伊与ヨリ来レリト云傳フル由ヲ答ウ

大平記ヲ按スルニ服屋右衛門佐義治ハ元亨二年ノ生也

又三宅萩野謀叛ノ条下ニ高徳伊与国ニ在シカ新田義治ヲ取立ント上野ニ申遣シ萩野彦六朝忠ヲカタラヒ備前国小嶋ニ楯籠萩野ハ丹波国高山寺ニ楯籠ル処足利方ヨリ攻ラレ降参ス高徳ハ義治ヲ伴ヒ京ニ攻上ル処蜜謀露顕シ終ニ義治ヲ透ヒ上野ニ赴ヨシヲ載ス（中略）

後又軍記ヲ按ルニ延元二年義貞越前ニ戦死シ玉ヒテヨリ越後ニ赴キ彼ノ地ニ蟄シ玉シカ應安元年三月六

日越後国ヲ發シ上野国沼田庄ニ至リ義宗トトモニ鎌倉ニ寄セシト軍議アリシ処ヘ同月十八日鎌倉ヨリ逆寄ニ来リ五十余日戦陣シ終ニ打負出羽国ニ蟄裏老ノ霜降ル眉ヲ頻テヲハシケルカ應永十六年正月廿一日ノ夜ニ義宗義治出羽羽黒ヲ立四国ニ赴カントテ信濃伊勢ヲ経和泉ノ堺ヨリ舩ニ乗伊与国大嶋ト云処ヘ着土居得能河野ヘ使シ玉ヘハ宇和嶋ニ移シマイラス天正元年ノ頃新田

宮嶋動ノ事アリ彼新田明神ト申ハ應永年中新田武蔵少將義宗脇屋右衛門佐義治出羽国ヨリ蜜ニ當国ヘ抜落ヲハシマシ河野一族土居得能ヲ頼給テ深ク蟄シテヲハシケルカ時至ラサレハ素懐モ達シ玉ハス彼国ニテ空ク成玉ヒシヲ新司庄園其頃淺間ナル小宮ヲ假ニ営ミ崇メテ神ニ祭リ新田ノ明神ト号ケ奉ルト云云

私云義治元亨二年ノ生レナレハ應

永十六年ハ八十七歳ナリコレヲ以
テ校レハ義治ハ伊与ニテ卒シ玉フ
ニ相違ナシ義治ニ男子アツテ當国
ニ忍ヒ此地ニ住シ玉イシカ五岳衛カ
家系ニ大郎九郎尾張守義治ハ明徳
ノ頃藤坂村ニ来リ住ストアレハ脇
屋義治ニハ非ルコト明ナリ若義秀
脇屋義治ノ子ナラハ此人ニ此時氏
及ヒ假リ名ヲ改メテ竊カニ出羽ヲ
リ差越シ玉イシヲ家傳ノ説ニ明徳
頃来住スト且藤坂神祠棟梁ノ文ニ
明徳三年トアルヲ視ルトキハ同年

以前元年以後来住カ其頃トイフト
モ村長無キコトアラン然ルニ姓氏
ヲ隠シ忍ヒテ蟄スル程ノ人ニシテ
獨棟札ニ文ノ趣ヲ書スルコト解シ
カタシ此等ノ事ヲ以テ考レハ棟札
ノ文ハ後世ノ偽作ニハアラサルカ
然シナカラ波多野ノ旗下ニ屬シ藤
坂ニ城地ヲ構ヘ居ルヲ見ルトキハ
越前守義里ヨリ前キニアル人ナル
カ

又藤坂村ノ妙賢堂ハ往古但馬国山
名氏建立ト云傳フ

私ニ云明徳二年山名氏清内野ニ戰
死マテハ丹波ハ氏清ノ領国ナレハ
カノ堂ヲ造立ノ所以モアルヘシ若
氏清ノ支族後此地ニ忍ヒ住シ前ニ
弁スル大郎九郎ニテハナキカトノ
疑モアルヘケレトモ既ニ山名宮田
知城ニ籠リタル時大芋村雲ト郷民
走集リ攻メ亡ホシタレハカノユカ
リノ者ヲ差テタヘキ理ナシ
大系圖ニ藤姓ノ分レニ中馬氏見ユ
追テ考ヘシ

一 六藏行状
享保十九甲寅年兄五兵衛早世ス又雲
雜命シテ嫂ヲ妻トシ家ヲ相續セヨト
云六藏咎テ他人ヲシテ然カセシト云
父諾セス故ニ正コトアタハスシテ昏
礼ノ式ヲナス然レトモ閨門ヲ事ニ及
ハス最他ニオイテ色欲ナシ辛ニ兄ノ
女ヲ撫育シ成長ニ及シト天田郡兎原
庄細見村大次郎カ子ヲ猶子トシ姪ヲ
妻ハセ家ヲ譲ル六藏嫂ト昏礼ヲ取行
ヒシ年三十二茲年明和辛卯ニ至リ三

十八年其志ヲカヘス六十七歳ニ至ル
一家富僑カナラサレトモ愁訟ノ意ナク
凶年ニモ年貢里正ノ催促ヲ待タスシ
テ量納ス
一村中書筭ヲナス者惟六藏ノミナリ然
レトモ里正ノ職ヲ嫌ラヒアツカラス
年貢及村用ノ事ハ里正ニ代ツテ其ノ
業ヲナシ用ヲ辞ス然リト雖其料ヲ
受ケスモトヨリ廉直ニテ一事ヲ違
ヘス
一生質篤實ニシテカリソメニモ偽ラス
一松平紀伊守信峯君領知ノ頃藤坂

村民カ衰ヘ田地六町余リ耕作スル
コトアタハス官ニ訟フ即篠山ニ階
坊亀屋德右衛門ニ賜フ此時ヨリ田
歩民圖帳ニ引合セ一歩ノ私ナク割
与フ
右ノ行状ノ褒賞トシテ寶暦九己卯
年米穀三俵ヲ賜フ

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan